

第1問 次の文章は、イギリスのパブリック・スクール（私立の伝統校で全寮制）について、若き日にそこで学んだ著者が自らの体験をふまえて論じたものである。これを読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

パブリック・スクールの生活が規律正しく運営されてゆくことを助けるものは、プリーフェクトの制度である。プリーフェクトとは、最高学級に属し人格成績衆望いずれも他の(ア)モハンとなり、そして何れかの種目の運動競技の正選手をしているものの中から、校長によって選ばれ、校内の自治を委ねられた数名の学生である。決して学生によって選挙されたり、任命に際して校長が教師に意見を聞くこともない。校長の権力はそのように強いが、同時に、校長は個々の学生をそれほどよく知りぬいているということにもなる。

寮には二人のハウスマスターがいるが、これは直接あまり細いことには干渉しない。一方、学生の間には自分達の小さな紛争をいちいち教師の(イ)サイドンに持ち込まないで、同じく学生仲間であるプリーフェクトの調停によるうとする風がある。

そもそもこの制度は学生間の『弱いもの虐め』の風を防止することを目的としたものといわれる。校長より自治権を(ウ)インされた数名のプリーフェクトは常にこの点にもつとも(エ)リュウイしており、現在のイギリスの諸学校では、いわゆる『弱いもの虐め』の弊風はほとんど後を絶っているといつてよい。

十三歳の下級生と十八歳の人望ある運動選手が口論をして、結局、後者の親友であるプリーフェクトが調停に入り、双方の云い分をきいた後、その下級生に有利な判決を下したのを見たことがある。わが国の学校でこのようなことのある場合、まずこれだけの年齢の差があつて最初から口論になつたかどうか、また、仮にプリーフェクトの制度があつたとしても、彼等がただ道理にのみしたがつていけば自分の仲間に不利な判決を下す勇氣があつたかどうか、更に判決が下つた後、両者が潔くこれに服したかどうか、(A)いずれも疑問なしとしない。勿論、イギリスの学生の間にも口論はよくあつた。しかしこれがほとんど喧嘩にならない。途中で相手の道理を認めた方が、(注)恬淡に己の主張を撤回して事が落着いてしまう。いわゆる『面子』にこだわらず、意固地を張らない。貴様は生意気だぞ、己の非を自覚ししかもこれを通そうとする強者が、(B)良心にてれて自分自身に云つて聞かすときに使う、このような言葉は彼等の間に通用しない。

C人 **C**色皆異なるのであるから一概にイギリスの学校教師の特徴を断定するのは危険である。しかし彼等が青少年に訓えるところで特にわれわれに強く響くことは、要するに、正直であれ、是非を的確にする勇氣をもて、弱者を虐めるな、他人より自由を侵さるるを嫌うが如く他人の自由を

侵すな、このようなことであると思う。そして彼等は正面切つて教訓を垂れることを避け、事の序に託ついたり、寓話的なまたは滑稽皮肉な表現で、学生に對しいわんとするところを会得させる風がある。相手に云い分があれば充分云わせ、万一、自己の誤に気がつけば潔くそれを認め陳謝してこれを撤回するだけの雅量は欠かない。

たびたび引いた例ではあるが、ピアノの上手な、数学の下手な学生に、ピアノの練習の時間を割いて数学の勉強にあてるように叱言を云つた数学の教師があつた。十三、四歳であつたか、これに答えた学生の凜然たる風貌を思い出すのである。数学の勉強が足りない、仰るのなら数学教師として御尤ものことであり謹んでお受けする。しかしピアノが正当な課目として許され、自分が数学の時間にピアノを弾いていたような不都合のない限り、自分のピアノの練習はピアノの教師と自分だけに関する問題であつて、少くとも数学教師たる貴下の関知するところではない。自分には筋の通らぬ指図を受ける心算はなく、無用の干渉は迷惑と心得るからお控え願いたい。

教師がただちに謝まつて話は済んだのだが、相手を怖れず信ずる所を述べて憚らない少年の態度といい、面子に拘つて非を固執しない教師の男らしさといい、この国の学校のもつ雰囲気の特徴がよく判ると思われるのである。少し皮肉に云えば、少年が敢てこのような態度がとれたのは、教師がみずからの誤に気がつけばこのように釈然とそれを認めるであろうことをあらかじめ知っていたからであり、抗議することによつて如何なる意味においても己が不利を蒙むることのないことが判っていたからとも云える。

すなわちそのような空気の中に育つたその少年は、自分が何か特別な行動をとつたとは考えなかつたに違いない。その証拠には、この出来事は誰の注意を引くようなこともなく、全然、話題にも上らずに済んでしまつたのである。ただそれとは異つた空気の中に育つた東洋の留学生の頭にだけ、それが出来事として印象され、四半世紀を経てなお忘れられないというに過ぎない。

たまたま最近、ある教育者の集つた席上でこの話を持ち出したことがある。そして少年の主張を申し述べ終つた途端、なんと一座に爆笑の聲が起つたのである。これは実に意外であつたが、同時に、あの国とこの国の学校を支配する雰囲気のいちじるしい相違に劇しく胸を衝かれたのである。果してこの少年は、この先生方の考えられるような、そんな「ドン・キホーテ」なのであろうか。この少年の云い分は、見解の相違で反駁することも出来るだろうし、あるいは黙殺してもよいであろう。唯一つ、確なことは、これを笑つたり嘲つたりは出来ないということである。少年にかかるところを云わしめたことがこの少年にとつてどんな大切な意味をもっているかを理解するならば、かりそめにも笑うことだけは出来ない筈なのである。もし笑い得たとすれば、それは少年の心理を理解し得ない——つまり自由を侵されても侵されたことに気がつかないか、気づいてもそのまま

泣寝入りしてしまう卑屈性が身にこびりついた人間という外はない。

(池田 潔『自由と規律』による。ただし一部本文を改変した。)

(注)

- 1 恬淡……物事に執着しない様子。
- 2 ドン・キホーテ……セルバンテスの小説の主人公名。現実を無視して向こう見ずな行動をする人を意味する。

問 1 傍線部(ア)～(エ)の漢字に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 4。

- (ア) モハン
- 1
- ① 正しいハンケツが下る
- ② テストのハンイが発表される
- ③ 新製品のハンブ会を開く
- ④ ハンテン模様の布を買う
- ⑤ 辞書のハンレイを見る

(エ)

4 リユウイ

- ① 事故で汚水がリユウニユウする
- ② 容疑者をリユウチ場に送る
- ③ この砂のリユウシは細かい
- ④ 地震で地盤がリユウキした
- ⑤ 新聞のセンリユウの欄に投稿する

(ウ)

3 イニン

- ① イサイは面談でお話しします
- ② ケンイある人から命令される
- ③ 著名な人物にイケイの念を持つ
- ④ 大勢の人の前でイシユクする
- ⑤ 見解のソウイがある

(イ)

2 サイダン

- ① 彼のサイノウはすばらしい
- ② その作品はイサイを放っていた
- ③ 相手チームをフンサイするまで戦った
- ④ 借金をヘンサイする
- ⑤ 悪人にセイサイを加える

問2 傍線部A「いずれも疑問なしとしない」とあるが、本文中の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 5。

- ① 上記の三点について、大いに疑問に思う。
- ② 上記の三点について、少し疑問に思う。
- ③ 上記の三点について、全く疑問に思わない。
- ④ 両者どちらの立場であっても、疑問に思う。
- ⑤ 両者どちらの立場であっても、疑問に思わない。

問3 傍線部B「良心に於て自分自身に於て聞かすときに使う、このような言葉」とあるが、この意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 6。

- ① 己の非を自覚した強者が、良心に照らし合わせてやはり自分の主張として大事だと思って使う、「面子」という言葉。
- ② 己の非を自覚した強者が、良心がとがめたもののやはり自分の立場を保とうとして使う、「貴様は生意気だぞ」という言葉。
- ③ 己の非を自覚した強者が、良心に照らし合わせて己の主張を撤回した時に自らに言い聞かせるために使う、「貴様は生意気だぞ」という言葉。
- ④ 己の非を自覚した強者が、良心がとがめ、相手の道理を認めて己の主張を撤回したときに使う、「面子」という言葉。
- ⑤ 己の非を自覚した強者が、自らの良心に従い、意固地を張らないために自らを納得させる時に使う、「貴様は生意気だぞ」という言葉。

問4 空欄Cに当てはまる漢字を次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は7。

- ① 一 ② 三 ③ 四 ④ 七 ⑤ 十

問5 傍線部D「一座に爆笑の声が起った」とあるが、その理由として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は8。

- ① 数学教師が、ピアノの上手な、数学の下手な十三、四歳ほどの学生に見事に言いくるめられたことがおもしろかったから。
② ピアノの上手な、数学の下手な十三、四歳ほどの学生が、数学教師に向かって言った言葉があまりにおもしろかったから。
③ ピアノの上手な、数学の下手な十三、四歳ほどの学生が、数学教師に対して無謀にも反論をしたということがおもしろかったから。
④ 教師と学生との間で議論が交わされるという出来事は、イギリスでは話題にもならないが、日本ではおもしろいものであったから。
⑤ 数学教師が、数学の下手な学生に対して言った内容が筋の通らないもので、同じ教育者として数学教師の失敗をおもしろく思ったから。

問6 本文の内容に合致しないものを、次の①～⑥のうちから二つ選びなさい。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は

9

・10

。

- ① プリーフェクトとは、校長によつて選ばれるもので、学生による選挙や校長が教師に意見を聞くことなどはない。しかし、校長は個々の学生をよく知りぬいているため、そのような選出方法が可能なのである。
- ② イギリスの学校教師は、正面切つて教訓を垂れることを避け、学生に対し、相手に云い分があれば充分云わせた上で、上級生や教師に対する態度について会得させるのである。
- ③ 教師がみずからの誤に気がつけば釈然とそれを認めるといふ雰囲気があるからこそ、学生も己が不利を蒙むることのないことが判っており、自ら信ずるところを堂々と述べることができる。
- ④ 数学教師に対し抗議した少年は、自分が何か特別な行動をとつたとは考えなかつたに違いないが、東洋の留学生の頭には、その出来事が印象深く残り、四半世紀を経て日本の教育者の集まりでその態度が賞賛された。
- ⑤ 教師が面子に拘つて非を固執しないという態度を取り、自己の誤に気がつけば潔くそれを認め、陳謝してこれを撤回するだけの雅量があるという点に、イギリスの学校の持つ雰囲気の特徴がよく表れている。
- ⑥ ピアノの上手な、数学の下手な少年が、相手を恐れず信ずる所を述べたという出来事には、他人の自由を侵さないことと同時に、自分の自由を守るという大切な意味があり、笑うことはできないのである。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。

「科学者になるには『あたま』がよくなってはいけない」これは普通世人の口にする一つの命題である。これはある意味ではほんとうだと思われる。しかし、一方でまた「科学者はあたまが悪くなくてはいけない」という命題も、ある意味ではやはりほんとうである。そうしてこの後のほうの命題は、それを指摘し解説する人が比較的少数である。

この一見相反する二つの命題は実は一つのもの互いに対立し共存する二つの半面を表現するものである。この見かけ上のパラドックスは、実は「あたま」という言葉の内容に関する定義の曖昧不鮮明から生まれることはもちろんである。

論理の連鎖のただ一つの輪をも取り失わないように、また混乱の中に部分と全体との関係を見失わないようにするためには、正確でかつ緻密な頭脳を要する。^ア紛糾した可能性の岐路に立ったときに、取るべき道を誤らないためには前途を見透す内察と直観の力を持たなければならない。すなわちこの意味ではたしかに科学者は「あたま」がよくなってはならないのである。

しかしまた、普通にいわゆる常識的にわかりきったと思われることで、そうして、普通の意味でいわゆるあたまの悪い人にも容易にわかったと思われるような尋常茶飯事の中に、何かしら不可解な疑点を認めそうしてその^{（注）}（せんめい）^{（注）} 闡明に苦吟することが、単なる科学教育者にはとにかく、科学的研究に従事する者にはさらにいっそう重要必須なことである。この点で科学者は、普通の頭の悪い人よりも、もつともつと物わがりの悪いのみ込みの悪い田舎者であり^{（注）}（まご） 朴念仁でなければならない。

頭のよい人は、あまりに多く頭の力を過信する恐れがある。その結果として、自然がわれわれに表示する現象が自分の頭で考えたことと一致しない場合に、「**A**」のほうが間違っている」かのように考える恐れがある。まさかそれほどでなくても、そういったような傾向になる恐れがある。これでは自然科学は自然の科学でなくなる。一方でまた自分の思ったような結果が出たときに、それが実は思ったとは別の原因のために生じた偶然の結果でありほしくないかという可能性を吟味するというだいたいな仕事を忘れる恐れがある。

頭の悪い人は、頭のいい人が考えて、はじめからだめにきまつているような試みを、一生懸命につづけている。やっと、それがだめとわかるころには、しかししたい何かしらだめでない他のもの糸口を取り上げている。そうしてそれは、そのはじめからだめな試みをあえてしなかった人には決

して手に触れる機会のないような糸口である場合も少なくない。自然は書卓の前で手をつかねて空中に絵を描いている人からは逃げ出して、自然のま
ん中へ「**赤裸**」で飛び込んで来る人へのみその神秘の扉を開いて見せるからである。

頭のいい人には恋ができない。恋は盲目である。科学者になるには自然を恋人としなければならない。自然はやはりその恋人へのみ真心を打ち明け
るものである。

科学の歴史はある意味では錯覚と失策の歴史である。偉大なる（注3）迂愚者（うぐ）の頭の悪い能率の悪い仕事の歴史である。

頭のいい人は批評家に適するが行為の人にはなりにくい。すべての行為には危険が伴うからである。けがを恐れる人は大工にはなれない。失敗を
こわがる人は科学者にはなれない。科学もやはり「**頭の悪い命知らずの死骸の山の上に築かれた殿堂であり、血の川のほとりに咲いた花園である。**」一
身の利害に対して頭がよい人は戦士にはなりにくい。

頭のいい人には他人の仕事のあらが目につきやすい。その結果として自然に他人のする事が愚かに見え従って自分がだれよりも賢いというような錯
覚に陥りやすい。そうなると自然の結果として自分の向上心にゆるみが出て、やがてその人の進歩が止まってしまふ。頭の悪い人には他人の仕事がた
いていみんな立派に見えると同時にまたえらい人の仕事でも自分にもできそうな気がするのでおのずから自分の向上心を刺激されるということもあ
るのである。

。頭のいい人で人の仕事のあらはわかるが自分の仕事のあらは見えないという程度の人がある。そういう人は人の仕事をくさしながらも自分で何か
しらの仕事をして、そうして学界にいくぶんの貢献をする。しかし、もういつそう頭がよくて、自分の仕事のあらも見えるという人がある。そういう人
になると、どこまで研究しても結末がつかない。それで結局研究の結果をまとめないで終わる。すなわち何もしなかったのと、実証的な見地からは同
等になる。そういう人はなんでもわかっているが、ただ「人間は過誤の動物である」という事実だけを忘却しているのである。一方ではまた、**E大小**
方円の見さかさもつかないほどに頭が悪いおかげで大胆な実験をし大胆な理論を公にしその結果として百の間違いの内に一つ二つの真を見つけ出し
て学界に何がしかの貢献をしました誤って大家の名を博する事さえある。しかし科学の世界ではすべての間違いは泡沫（ほうまつ）のように消えて真なもののみが生
き残る。それで何もしない人よりは何かした人のほうが科学に貢献するわけである。

F 学者はまた、何か思いついた仕事があった場合にでも、その仕事の結果の価値という点から見るとせっかく骨を折っても結局たいした重要な
ものになりそうもないという見込みをつけて着手しないで終わる場合が多い。しかし **G** 学者はそんな見込みが立たないために、人からはきわめて

つまらないと思われる事でもなんでもがむしやらに仕事に取りついてわき目もふらずに進行して行く。そうしているうちに、初めには予期しなかったような重大な結果にぶつかる機会も決して少なくはない。この場合にも **H** 人は人間の頭の力を買いかぶって天然の無際限な奥行きを忘却するのである。科学的研究の結果の価値はそれが現われるまではたいていだれにもわからない。また、結果が出た時にはだれも認めなかった価値が十年百年の後に初めて認められることも珍しくはない。

頭がよくて、そうして、自分を頭がいいと思ひ利口だと思ふ人は先生にはなれても科学者にはなれない。人間の頭の力の限界を自覚して大自然の前に愚かな赤裸の自分を投げ出し、そうしてただ大自然の直接の教えにのみ傾聴する覚悟があつて、初めて科学者にはなれるのである。しかしそれだけでは科学者にはなれない事ももちろんである。やはり観察と分析と推理の正確周到を必要とするの言うまでもないことである。

つまり、頭が悪いと同時に頭がよくなくてはならないのである。

この事実に対する認識の不足が、科学の正常なる進歩を阻害する場合がしばしばある。これは科学にたずさわるほどの人々の慎重な省察を要することと思われる。

最後にもう一つ、頭のいい、ことに年少気鋭の科学者が科学者としては立派な科学者でも、時として陥る一つの錯覚がある。それは、科学が人間の知恵のすべてであるもののように考えることである。科学は孔子のいわゆる「**注**格物」の学であつて「**注**致知」の一部に過ぎない。しかるに現在の科学の国土はまだ**注**ウパニシャドや老子やソクラテスの世界との通路を一筋でももっていない。「**注**芭蕉や広重の世界にも手を出す手がかりをもっていない。そういう別の世界の存在はしかし人間の事実である。理屈ではない。そういう事実を無視して、科学ばかりが学のように思い誤り思いあがるのは、その人が科学者であるには妨げないとしても、認識の人であるためには少なからざる障害となるであろう。」**注**これもわかりきったことのもうであつてしばしば忘れがちなことであり、そうして忘れてならないことの一つであらうと思われる。

この老科学者の世迷い言を読んで不快に感ずる人はきつとらやむべきすぐれた頭のいい学者であらう。またこれを読んで**注**心の笑みをもらす人は、またきつとらやむべく頭の悪い立派な科学者であらう。これを読んで何事をも考えない人はおそらく科学の世界に縁のない科学教育者か科学商人の類であらうと思われる。

(寺田 寅彦『科学者とあたま』による。ただし一部本文を改変した。)

(注)

- 1 闡明……道理や意義を明らかにすること
- 2 朴念仁……物事の道理がわからない、頭の固い人
- 3 迂愚者……世間に疎い、愚かな人
- 4 格物……「物に格いたる（あるいは「格ただす）」、物事の本質や道理を究めること
- 5 致知……「格物」の次の段階で、知力を磨き上げること
- 6 ウパニシヤド……古代インドの哲学書

問1 傍線部ア～ウの語の文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 11 ～ 13 。

ア 紛糾

11

- 
- ① 粉々に碎けてしまうこと
 - ② 互いに大声で議論すること
 - ③ 複雑にもつれてまとまらないこと
 - ④ 問いただして追求する必要のあること
 - ⑤ 困り果てて追い詰められること

イ
赤裸

12

- 
- ① 何も身につけていない全裸の状態
 - ② 恥ずかしさに真っ赤になる様子
 - ③ 赤ん坊のように知識のない状態
 - ④ 裸でも恥ずかしがらない堂々とした様子
 - ⑤ 素裸でいるような素直な心の状態

ウ
会心

13

- 
- ① 気持ちよく感じられること
 - ② 自らの行動に自分で満足すること
 - ③ 自分の意にかなない納得すること
 - ④ 人と意見が一致し喜ぶこと
 - ⑤ 行いを反省し気が晴れること

問2 空欄 A を補うのに、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

14。

- ① 自分 ② 考え ③ 自然 ④ 科学 ⑤ 過信

問3 傍線部 B 「頭の悪い命知らずの死骸の山の上に築かれた殿堂であり、血の川のほとりに咲いた花園である」とあるが、その説明として最も適当

なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

15。

- ① 科学の歴史は偉大なる迂患者の頭の悪い能率の悪い仕事の歴史であり、頭の悪い科学者が多く存在し、数多くの失敗を重ね、その失敗を生かすことのできる頭のいい科学者が成功し、立派な成果を上げることができるということ。
- ② 自分の愚かさを自覚しつつ、それでも自然科学の研究に必死に取り組んだ多くの科学者が存在し、またその研究が成果を出せないことも多いが、そのような報われない研究の蓄積の上に、科学の進歩があるということ。
- ③ 自分の思ったような結果が出たときに、それが実は思ったとは別の原因のために生じた偶然の結果でありはしないかという可能性を吟味するというくだいじな仕事を忘れ、失敗する人が多いこと。
- ④ 普通の意味でいわゆるあたまの悪い人は、普通にいわゆる常識的に容易にわかったと思われるような尋常茶飯事の中に、何かしら不可解な疑点を認めそうしてその闡明に苦吟するということ。
- ⑤ すべての行為には危険が伴ない、けがを恐れる人は大工にはなれないが、頭のよい人は批評家に適しており行為の人にはなりにくいため、けがをすることなく成功を収めることができるということ。

問4 傍線部C「頭のいい人で人の仕事のあらはわかるが自分の仕事のあらは見えない」、傍線部D「もういつそう頭がよくて、自分の仕事のあらも

見える」、傍線部E「大小方円の見さかいかもつかないほどに頭が悪い」とあるが、学界に貢献するのはどのような人か。貢献する度合いの高い順に並べたものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

① C—D—E

② D—C—E

③ D—E—C

④ E—C—D

⑤ E—D—C

問5 空欄 F ・ G ・ H を補うのに、最も適当なものの組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 17。

① F—頭のいい・G—頭の悪い・H—頭の悪い

② F—頭のいい・G—頭の悪い・H—頭のいい

③ F—頭の悪い・G—頭のいい・H—頭のいい

④ F—頭の悪い・G—頭のいい・H—頭の悪い

⑤ F—頭のいい・G—頭のいい・H—頭の悪い

問6 傍線部Ⅰ「芭蕉」の作品ではないものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

18。

① 鹿島紀行

② 野ざらし紀行

③ 笈おいの小文

④ 奥おくの細道

⑤ 更級しな日記

問7 傍線部Ⅱ「これ」の内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

19。

① 科学が人間の知恵のすべてではないこと

② ウパニシヤドや老子やソクラテスの世界

③ 芭蕉や広重の世界にも手を出す手がかり

④ 科学ばかりが学のように思い誤り思いあがること

⑤ 科学が認識の人であるために障害となること

- ① 「科学者になるには『あたま』がよくなくてはいけない」「科学者はあたまが悪くなくてはいけない」という、この一見相反する二つの命題はよく口にされるが、科学には正確かつ緻密な頭脳を要し、内察と直観の力を持たなければならないため、「あたま」のよい人が科学者になれる。
- ② 「あたま」のよい人は、普通にいわゆる常識的にわかりきったと思われることで、そうして、普通の意味でいわゆるあたまの悪い人にも容易にわかったと思われるような尋常茶飯事の中に、何かしら不可解な疑点を認めそうしてその闡明に苦吟するということができる。
- ③ 頭のいい人には恋ができないが、科学者になるには自然を恋人としなければならず、自然はやはりその恋人である科学者にのみ真心を打ち明けるものであるため、科学者は恋をしないほうがよい。
- ④ 科学的研究の結果の価値はそれが現われるまではわからないことが多く、また、結果が出た時にはだれも認めなかった価値が十年百年の後に初めて認められることも珍しくはないため、科学者の「あたま」のよい、悪いは判断できない。
- ⑤ 科学者は自然現象について常識的にわかりきったようなことでも疑問を持ち、謙虚な態度であるということと、観察と分析と推理の正確周到を必要とされるということの二つの面が求められる。

第3問 次の各問い（問1～問3）に答えなさい。

問1 次のア～エの語句の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は

21

24

ア 万古不易

21

- ① 昔はしきたりなどがむずかしかったこと
- ② 古いものは今の時代では流行しないこと
- ③ 時代によって物事が変化すること
- ④ いつまでも変わらないこと
- ⑤ いつまでも古い考えにこだわること

イ 金字塔

22

- ① 地道な努力を重ねて成し遂げた成功
- ② 舞台などの華々しい登場の仕方
- ③ 世間で有名になり噂される評判
- ④ 投資などをして得た莫大な利益
- ⑤ 後世にも残るような偉大な業績

ウ

八面六臂び

23

- 
- ① 一人で何人分もの仕事を立派にこなすこと
 - ② 誰からもよく思われるようにふるまうこと
 - ③ すきだらけで攻められてもどうしようもないこと
 - ④ 守りを固めているつもりでも油断のあること
 - ⑤ 全てではないがある程度の分量を済ませたこと

エ

噴飯もの

24

- 
- ① ご飯を吹き出すほどの勢いで大声を出して怒鳴ること
 - ② ご飯も食べられないほどにつらく悲しい思いをすること
 - ③ ご飯を多くの人にごちそうしてにぎやかに過ごすこと
 - ④ ご飯を鍋から吹きこぼすように油断して失敗すること
 - ⑤ ご飯を吹き出すほどにおかしくてつい笑ってしまうこと

問2 次のア～ウの語句の使い方として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 25 ～ 27。

ア 痛しかゆし

25

- ① 自らを犠牲にしても人を助けるといふ彼の行動は痛しかゆしと称賛された。
- ② 転んで大けがをしたが、みんなに心配されて痛しかゆしだ。
- ③ 観光客が増えたが交通渋滞やごみの散乱が問題になり痛しかゆしだ。
- ④ 教育ではほめたり叱ったりするという痛しかゆしの態度が大切だ。
- ⑤ 彼の発言はすつきりしない言い方で、痛しかゆしの感がある。

イ ねんごろに

26

- ① やっと巡ってきたチャンスだと思い、ねんごろにバットを振った。
- ② 彼にはとても世話になったので、ねんごろにもてなすつもりだ。
- ③ 興味のないスポーツにねんごろに誘われて迷惑している。
- ④ 猫がねずみをねんごろに追いかけてまわしている。
- ⑤ 小さな子どもが親に甘えてねんごろに話しかけている。

ウ あわや

27

- ① あわや大惨事になるところを、未然に防ぐことができた。
- ② あわや有名になって、親孝行ができればと思っている。
- ③ もう少し頑張れば、あわや優勝できたかもしれない。
- ④ あわや私が手に入れるはずの大金だったのに、残念だ。
- ⑤ 彼女があわや迷っているのであれば、励ましてやってほしい。

問3 次のア～ウの語句の対義語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は ～ 。

ア 閑散

イ 喪失

ウ 中枢

- ① 集合
- ② 末端
- ③ 混雑
- ④ 分割
- ⑤ 損益
- ⑥ 獲得